

セルフライナーノーツ

格別に愛おしい作品ができました。

どうぞお召し上がりください。「Bon appetit」。

.....
一昨年の2月に母が亡くなって「介護と音楽」という生活のリズムが崩れた。実はそれ以来私は音楽の迷子になってしまっていた。心の底から湧き上がるような創作への意欲が自分の中から消えてしまったのではないかという不安の中にいた。

そして、去年の春以来コロナの影響でLiveが激減した。

日本中の誰もと同じように「Stay Home」を余儀なくされた私は配偶者の小原礼の「仕事はなくても音楽はある」という言葉に支えられて自宅の音楽室から無料の音楽配信をすることにした。演奏したのはカバー曲のみ。

音楽によって解放される自分の心と向き合うことができた。

どんなことから「学び」はある。

ようやく私は音楽を生み出すことの喜びと喜びを伴う苦しさの中に戻ることができた。

そして「Bon appetit」ができた。

新曲はボーナストラックの中野区立明和中学高の校歌を含めて4曲。あとは提供曲の中から特に今回歌いたいと思った7曲を選んだ。

どの曲も本当に本当に愛おしい。

プロデューサーとしてアレンジャーとして、そしてシンガーとして心を惜みずらぬ完成まで頑張れたのは素晴らしいミュージシャンやエンジニアの方々、全てのスタッフの方々を信じて支えてくださったから。

そして何よりも私の音楽を待っていてくださる皆さんの存在を信じていることができたから。

心から感謝しています。

尾崎亜美

それぞれの「Bon appetit」

1. 「メッセージ ～ It's always in me ～

失くしたと思っていたものが本当はずっと自分の中にあっただということに気づく、というアルバムの核になっている曲です。

ある日の私の何気ない言葉を書き留めて冷蔵庫に貼っておいてくれた配偶者の小原礼に感謝したいと思います。

2. 「I'm singing a song」

1曲めの「メッセージ」からのスピリチュアルな流れがすごく気に入っています。

3. 「Jewel」

タイムマシンに乗ったような気持ちで切ないラヴソングを歌いました。

4. 「フード ウォーリアー」

コロナ禍でもお料理で日々闘っているぞ、という自画像的な曲です。笑 松任谷正隆さんにもアコーディオンで参加して頂いて楽しい楽曲に仕上がりました。

5. 「Barrier」

最近 SNSなどでエスカレートしている誹謗中傷。誰かが誰かを簡単に傷つけることの怖さを私なりに描いてみました。「Bon appetit」の中では一番ハードな曲かな。

6. 「月を見つめて哭いた」

こういう大人なラヴソングは久しぶりです。プロデューサーの尾崎亜美がシンガーの尾崎亜美に「歌って」とリクエストしました。

7. 「境界線を引いたのは僕だ」

提供させて頂いた宇都宮隆さんが稀に見る変わった方だったのでこんな物語が生まれました。(詞の内容はもちろんフィクションです)

8. 「潮騒」

東日本大震災の後、海で愛する人を失った方に気持ちを寄せて作った楽曲です。藤田恵美さんが優しい声で歌って下さったヴァージョンも大好きなのですが、今回私は改めてレクイエムの想いを込めて歌ってみました。

9. 「To Shining Shining Days」

アルバムの流れの中でこの曲の役目は雨上がりの爽快感。少しソウルフルなコーラスもお気に入りです。

10. 「スケッチブック」

提供させて頂いたのんちゃんに会う直前に閃いた詞です。たとえ「失くした色」があったとしても歩き続ける、というテーマは「メッセージ」にも通じるものです。

今回のアルバムは「メッセージ」で始まって「スケッチブック」で終わろうと決めていました。

11. 「明和の風 吹き抜ける時」(東京都中野区立明和中学校 校歌)

詳しい経緯を書くとも長くなりますので短めにしますね。校歌を書かせて頂くことはすごく光栄なこと。取り壊されて新しく中学校として建て直される予定(数年かかるようです)のガランとした小学校や合併する二つの中学校のうちの一校(しばらくはここが中野区立明和中学校になります)を見学させていただき、先生たちのお話を伺ってから臨みました。

ポップな曲調で、とのリクエストだったので明るい気持ちになれるような楽曲にしました。収録されているのは提供した時のデモ音源なのですが、あえてそのままにしました。

45周年アルバムに寄せられたお祝いコメント

※五十音順／敬称略



小原礼

作詞、作曲、歌唱、プロデュースをこなすアーティストは数多くいると思うけど、全ての編集作業まで自分でやっちゃうのは尾崎亜美だけなんじゃないだろうか。

アルバムの制作が決まってから新曲を書き、セルフカバー曲を決め、アレンジをして、締め切りが近づいてくる中で、どんどん自分でやるが増えてきて、これで本当に間に合うんだろうかとドキドキしながらの毎日。

飯尾くんのミックス中にも自宅の音楽室でコーラスの録音(僕は亜美ちゃんのヴォーカル録音のエンジニアをしました)、編集をしてやっばりちゃんと間に合いました。なぜかいつもこぼれないのです。

ファイナルミックスを聴いてうちに帰ってささやかな乾杯をしました。

達成感たっぷりの45周年アルバム、たくさんの方に聴いてもらいたいです。

ぜひ「Bon appetit」



鈴木茂

アミちゃんとはいろんなライブやレコーディングでお世話になっております。

今すぐに思い出せる事はこれかな。

どこかの庭でお肉を焼いている時に、何度もお肉をひっくり返してアミちゃんに叱られました。

『肉は何度もひっくり返したらダメです、一回だけにして!!』

楽しい思い出です。



のん

一曲目の一音目が耳に入った途端に尾崎さんの音楽に飲み込まれました。

尾崎さんの歌声に乗せて、歌詞の切ない気持ちがぐさっと胸に押し寄せてきました。

いつも過ごしてる部屋がやけに静かに感じて、全集中力を使って曲を聴いていました。

そして、のんのファーストアルバムに、スケッチブックという素敵な曲を書いていただいたことに改めて感謝します。

尾崎さんの歌声で聴いて改めて、本当に良い曲だと感動しました。



林立夫

1975年12月、東京溜池の東芝EMIスタジオで初めて亜美ちゃんのレコーディングに参加した。

プロデュースとアレンジはマンタ(松任谷正隆)、そしてミュージシャンは気の知れた仲間たち。

当時、毎日のようにスケジュールに追われていたからか、新鮮な旋律と歌詞、説得力のある歌には皆とても敏感だった。

そしてもれなく「冥想」という曲にすぐ反応した。今年、最新アルバムに参加させてもらった。

亜美ちゃんの歌はもちろん健在、それどころか厚みが増している。

才能って、やり続ける力のことだと思うし、心が創り出すものに終わりはないのだとも思った。

あのスタジオの姿はもうそこには無い。



松任谷正隆

デビュー45周年だそうで、ということは少なくとも45歳以上だってことで、それが信じられません。このあいだ、デビュー間もない映像を見て、今とほとんど変わらないのでびっくりしました。音楽もそうだけど、なんだかどこか超越しているよね。実生活が想像出来ないってところも凄い。アーティストだなあ、って思います。去年から小原君とバンドをやるようになって、メンバーの奥さんという顔も出来た。なんだか不思議です。



松任谷由実

亜美は一見、不思議ちゃん。けれどその奥に、一本筋の通った実に品のある、美しい世界を持っている。そんなメロディ、言葉、ヴォーカル、を紡ぐ女性だ。子供の頃は病弱で、いつも微熱がちだったと聞く。きっと大切に育てられ、ひとりの空想時間が長かったことで培われた個性なのだろう。必ず誰かが守ってくれる、独特の吸引力。ともあれ、長く生きて、ブレずに音楽を続けて来れて良かったね！45周年おめでとう！



矢野顕子

優しい心を表現するためには、自分を制していくことや、音を選ぶ技術も必要です。尾崎亜美さんはそういうところを妥協しない。プロフェッショナルであるっていうのは、そういうことですね。



渡辺謙

亜美ちゃんのデビューアルバムを手にとったのはまだ田舎の高校生の時だった。色んな縁で、ここ10年様々な形で一緒にライブをやらせてもらっている。40数年経った亜美ちゃんは、今もみずみずしく、音を紡いでいる。あの声に包まれると、僕は一瞬で高校生の頃に戻れるのだ。